

創世記

天地の創造

1 初めに、神は天地を創造された。2 地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。3 神は言われた。「光あれ。」

こうして、光があった。4 神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、5 光を昼と呼び、闇を夜と呼び、夕べがあり、朝があった。第一の日である。

6 神は言われた。

「水の中に大空あれ。水と水を分けよ。」

7 神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分けさせられた。そのようになった。8 神は大空を天と呼び、夕べがあり、朝があった。第二の日である。

9 神は言われた。

「天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現れよ。」

そのようになった。10 神は乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼び、神はこれを見て、良しとされた。11 神は言われた。

「地は草を芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれの

*ヨハ六章一節詩

八編一節詩

一編一節詩

二編一節詩

三編一節詩

四編一節詩

五編一節詩

六編一節詩

七編一節詩

八編一節詩

九編一節詩

十編一節詩

十一編一節詩

十二編一節詩

十三編一節詩

十四編一節詩

十五編一節詩

十六編一節詩

十七編一節詩

十八編一節詩

十九編一節詩

二十編一節詩

二十一編一節詩

種を持つ実をつける果樹を、地に芽生えさせよ。」
そのようになった。12 地は草を芽生えさせ、それぞれの種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける木を芽生えさせた。神はこれを見て、良しとされた。

13 夕べがあり、朝があった。第三の日である。

14 神は言われた。

「天の大空に光る物があつて、昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるしとなれ。15 天の大空に光る物があつて、地を照らせ。」

そのようになった。16 神は二つの大きな光る物と星を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治めさせられた。17 神はそれらを天の大空に置いて、地を照らせ、18 昼と夜を治めさせ、光と闇を分けさせられた。神はこれを見て、良しとされた。19 夕べがあり、朝があった。第四の日である。

20 神は言われた。

「生き物が水の中に群がれ。鳥は地の上、天の大空の面を飛べ。」

21 神は水に群がるもの、すなわち大きな怪物、うぐめく生き物をそれぞれに、また、翼ある鳥をそれぞれに創造された。神はこれを見て、良しとされた。22 神はそれらのものを祝福し言われた。

「産めよ、増えよ、海の水に満ちよ。鳥は地の上に増

殖せよ。魚は水に満ちよ。地上の動物はそれぞれに増殖せよ。地上の動物はそれぞれに増殖せよ。地上の動物はそれぞれに増殖せよ。

k申四二ヨフ二

三編一節詩

二編一節詩

一編一節詩

二編一節詩

三編一節詩

四編一節詩

五編一節詩

六編一節詩

七編一節詩

八編一節詩

九編一節詩

十編一節詩

十一編一節詩

十二編一節詩

十三編一節詩

十四編一節詩

十五編一節詩

十六編一節詩

十七編一節詩

十八編一節詩

十九編一節詩

二十編一節詩

えよ。」

23 夕べがあり、朝があった。第五の日である。

24 神は言われた。

「地は、それぞれの生き物を産み出せ。家畜、這うもの、地の獣をそれぞれに産み出せ。」

そのようになつた。25 神はそれぞれの地の獣、それぞれの家畜、それぞれの土を這うものを造られた。神はこれを見て、よしとされた。26 神は言われた。

「我々にかたどり、我々に似せて、人を造らう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配せよう。」

27 神は御自分にかたどつて人を創造された。

神にかたどつて創造された。

男と女に創造された。

28 神は彼らを祝福して言われた。

「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

29 神は言われた。

「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。30 地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。」

そのようになつた。31 神はお造りになつたすべてのものを御覧になつた。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。

2

1 天地万物は完成された。2 第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なさつた。3 この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさつたので、第七の日を神は祝福し、聖別された。

4 これが天地創造の由来である。

主なる神が地と天を造られたとき、5 地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人もいなかった。

6 しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて潤した。7 主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。

8 主なる神は、東方のエデンに園を設け、自ら形づくつた人をそこに置かれた。9 主なる神は、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらすあらゆる木を地に生えいでさせ、また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいでさせられた。

10 エデンから一つの川が流れ出ていた。園を潤し、

h 詩四二・四三
一 三六・四四

i 出二八・二三
イ 申二二・一

j シラ五・九

k 詩六六・一五
一三・一七

l 創一元 知一
八・二二 詩一
六・二二 詩一
八・二二 詩一
二二・一

m コリ一五・二

n 創一元 知一
八・二二 詩一
六・二二 詩一

o 創一元 知一
八・二二 詩一
六・二二 詩一

p 創一元 知一
八・二二 詩一
六・二二 詩一

q 創一元 知一
八・二二 詩一
六・二二 詩一

r 創一元 知一
八・二二 詩一
六・二二 詩一

s 創一元 知一
八・二二 詩一
六・二二 詩一

t 創一元 知一
八・二二 詩一
六・二二 詩一

そこで分かれて、四つの川となっていた。11 第一の川の名はピションで、金を産み出すハビラ地方全域を巡っていた。12 その金は良質であり、そこではまた、琥珀の類やラピス・ラズリも産出した。13 第二の川の名はギホンで、クシュ地方全域を巡っていた。14 第三の川の名はチグリスで、アシュルの東の方を流れており、第四の川はユーフラテスであった。

15 主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた。16 主なる神は人に命じて言われた。

「園のすべての木から取って食べなさい。17 ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

18 主なる神は言われた。

「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助け者を作ろう。」

19 主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。20 人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助けける者は見つかることができなかった。

21 主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。22 そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られると、23 人は言った。

「ついに、これこそ

わたしの骨の骨
わたしの肉の肉。

これをこそ、女(イシャ)と呼ぼう

まさに、男(イシュ)から取られたものだから。」

24 こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。

25 人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりしなかつた。

蛇の誘惑

3 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。

「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」

2 女は蛇に答えた。

「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。3 でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけない

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

h 創二六、二七
a 創二七、二五
b 創二七、二五
c 民二七
d 創二七、二五
e 創二八、二五
f 創二八、二五
g 創二八、二五
h 創二八、二五

から、と神様はおっしゃいました。」

4 蛇は女に言った。

「決して死ぬことはない。5 それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」

6 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。7 二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。

8 その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩くと音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、9 主なる神はアダムを呼ばれた。

10 彼は答えた。
「あなたが足音から園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」

11 神は言われた。
「お前が裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」

12 アダムは答えた。

「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」

13 主なる神は女に向かって言われた。

「何とということをしたのか。」

女は答えた。

「蛇がだましたので、食べてしまいました。」

14 主なる神は、蛇に向かって言われた。

「このようなことをしたお前は

あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で

呪われるものとなった。

お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。

15 お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に

わたしは敵意を置く。

彼はお前の頭を砕き

お前は彼のかかとを砕く。」

16 神は女に向かって言われた。

「お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は、苦しんで子を産む。

お前は男を求め

彼はお前を支配する。」

17 神はアダムに向かって言われた。

「お前は女の声に従い、取って食べるなど命じた木から食べた。」

a ニコリ二一

テモ二四

リイサ二四一四一

六八二二二七

ダ二一六二二

二二二二二

三三

c ロマ二二二九

一テモ二四一

コ二四一四一

ヨ八二六

d イサ四七二

八

e 創六三三レヒ

六二一申三二五

サム下二四

f ヨブ三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

三九一三二

k 王三二二

七二二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

一三二二

お前はゆえに、土は呪われるものとなった。

お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。

18 お前に対して

土は茨とあざみを生えいさせる

野の草を食べようとするお前に。

19 お前は顔に汗を流してパンを得る

土に返るときまで。

お前がそこから取られた土に。

塵にすぎないお前は塵に返る。」

20 アダムは女をエバ（命）と名付けた。彼女がすべ
て命あるものの母となったからである。 21 主なる神
は、アダムと女に皮の衣を作つて着せられた。

22 主なる神は言われた。

「人は我々の一人のように、善悪を知る者となった。

今は、手を伸ばして、命の木からも取つて食べ、永遠に

生きる者となるおそれがある。」

23 主なる神は、彼をエデンの園から追い出し、彼に、

自分がそこから取られた土を耕させることにされた。

24 こうしてアダムを追放し、命の木に至る道を守るた

めに、エデンの園の東にケルビムと、きらめく剣の炎

を置かれた。

a 創一・九・ホセ四・
三〇五・二一
コ二・三・二三

b 創一・七・ヨハ一・
六・三〇・二七
二・一・二・一

c 創一・七・ヨハ一・
六・三〇・二七
二・一・二・一

d ヨ一・二・一
五・一・二・一
四・元・コヘ一・
三・二・七

e 知五八・一・コロ一・
五・二・三
二・コロ一・一
テモ一・三

f テモ一・三・二

g 出二五・二八・三
エゼ一〇・一二・二
一八・二六

h ヨブ四〇・一九 黙三・
二・二

©

共同訳聖書実行委員会

Executive Committee of The Common Bible Translation

日本聖書協会

Japan Bible Society

1987, 1988

引照

©

日本聖書協会

Japan Bible Society

1993

聖書 新共同訳

引照つき

引照監修 共同訳聖書委員会

NIO44 ISBN4-8202-1242-7

NIO49S ISBN4-8202-1244-3

Published by Japan Bible Society, Tokyo

BIBLE, The New Interconfessional Translation, with REF.

Cat. No. NIO44 JBS-ed. 1-3,000-1998

.....
Cum approbatione ecclesiastica

Printed in Japan

印刷・三省堂印刷 製本・星共社

発行所

日本聖書協会

東京都中央区銀座四丁目5番1号

1998